

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ともだちの家スピカ（放課後等デイサービス）				公表日	2026年4月30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	こどもの特性や年齢等によって、部屋を分けて別々に活動する時間を増やすなどができる。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		7	2	配置数が適切であるか、常に意識して運営している。こどもの数に対して、職員の数が多い。	職員が少人数で見られる関わりや対応ができるようにしていきたい。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6	3	絵カードや写真、ホワイトボードの活用、角のカバーなど。ロッカーや1日の流れを可視化。	バリアフリーにはなっていない。エアコンの効きが悪いことがある。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9	0	こども達の活動に合わせた空間はある。消毒や掃除等で清潔が保たれている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		8	1	個に応じた場所は確保できている。静と動の部屋分けができている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	3	業務改善の声はよくあがるが、振り返りまでにはいたらない。	PDCAサイクルは行っているが、職員全員の参画はもう少しといったところ。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	報告会議で意見があれば挙げている。	できていることが多いが、十分ではない。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	発達支援センターや相談支援員の訪問があり、評価を受ける場面がある。	3年目のため、第三者による外部評価は行われていない（今後検討予定）	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	定期的に研修が開催され、参加している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1	HPにて公表されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	個々にアンケート方式で実施している。モニタリング前会議にて協議されたものが反映されている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	評価会議やモニタリング前会議等において、協議している。	共通理解している支援としていないところが時折見える。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	児童発達支援計画が見られるようになっている。報告会等で共有されている。	十分ではないと感じる部分もある	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	ガイドラインを踏まえた話し合いのもと、支援内容が設定されている。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2	各々の職員から案を出し合い、共有して決めていく流れはできている。 週ごとに担当職員が立案している。 子どもが飽きずに新鮮な気持ちで参加できるようバリエーションを増やしている。	正規職員のみで行っているため、非常勤の意見も取り入れながら行ってきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	固定化しないよう職員間で確認し合っている。 季節行事や食育などさまざまな活動を行っている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	集団活動でできないことや補う必要があることを個別活動で行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	毎朝のミーティングで行っている。 一日の流れを当番スタッフより個々に口頭で指示がある。	支援開始前にいない非常勤職員に情報が伝わっていない部分がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	5	正規職員が話し合いで決定したことをパートに知らせている。 クローズ業務を行いながらの振り返りをするこどももある。	非常勤職員に伝えるのが直前になることがある。 送迎も含め、勤務時間内で行うことが難しいことが多い。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	2	連絡帳にて確認することができる。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	会議を行い、見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	2	複数の組み合わせはできている。	地域交流はできていない。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	子どもがどうしたいのかを大切に支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	積極的に行われている。	全参加者がこどものことをよく理解しているかの確認が必要
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	法人内の保育園と連携体制がとれている。 協力医療機関との連携がとれている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	法人内の保育園と連携体制がとれている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1	保護者からの情報共有はなされている。	学校関係者は支援内容等の情報共有を求めていることが多い。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3	現状事例がない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	相談支援の先生とは連携が取れている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	長期休み等で、児童館へ行くなどしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		自立支援協議会は参加できていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	主に連絡帳を通じて連携が図れている。 送迎時に情報共有する機会がある。 保護者の思いを聞き、支援につなげている。	対面で、また電話等で直接気軽に伝え合える場面が作れるとより良い。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	7		今後要検討	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	面談にて行っている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	最も力を入れているところであり、スタッフ全員が子どもにとって何が一番かをよく考えて取り組んでいる。 定期的に面談を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	丁寧に実施している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	連絡帳をはじめ、電話や対面で小さなことでも対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6		保護者の交流機会をつくれていない。保護者によっては仕事していて参加できないため無理に行わなくてよいという意見もあるが、年に2回など保護者が共通して抱えている課題や悩みなどに合わせた活動を計画していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	速やかに管理者に報告している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	4	イベントカレンダーの配布。 連絡帳での写真の共有。	保護者から月刊の便りがあるとよいという意見もあり、HPやSNSなどの活用を検討している。 HP、SNSは不十分。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	1	十分留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	伝え方や言葉遣いを慎重に行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	8		現在行っていない。検討中。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	定期的に様々なシチュエーションを想定し、行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	1	スタッフ間で確実に共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	個々に合わせた対応をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	面談や通知、連絡帳にて周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	PCでヒヤリハットをいつでも閲覧でき、口頭でも情報共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		基本的には適切な対応を行っているが、研修機会をもう少し増やしたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	身体拘束を行う際、保護者から了解を得る必要があることをスタッフが把握している。 実際は身体拘束を行ったことはない。		